

平成二十一年（二〇〇九年）十月十三日 出口信一先生をおしみて

神から人へ 人から神へ。

現世の出会いも、別れも、縁も、全ては神に 仕組まれしもの。

人はこの世に出会いし人と、その和を保ちて 生き永らえて、さにてこの世の み役を果たす。

尊とうとき出で会かいいは 神のみ恵み。己の御魂の向上のため、神に賜る縁なれば。

人は宿世すくせのしがらみを捨て、過去の執念、執着取りて、現世の生を 許さるものなれ、

ただひたすらに 今世の行を、尊とうとみ 畏かしこみ、行いうべけれ。

迷い、疑い、ためらいは、御魂の成長、進化と共に、外はずしていけよ、離れゆけ。

残さる時の短きを、惜しまば、神への信 一筋に、捧たかげるものは 御魂のみ。

この世の行に、疲れし身には、神の光が 降り注つがれむ。

やがては 御魂は 肉体 離れ、永と久わの浄土に 生まれ変わらむ。

清き祈りの言霊は、御魂を清め、地をも清めむ。

なれば人は、言霊を、さらにも高めて、神へと捧ささげよ。

あの世に映れる 乱れ狂いは、この世のことばの乱れなり。

亡き人と なりぬる人の 御魂にも、祝いのことばを 奉たてまらむ。

在ありし日 立てし 人の功いさおを 讃たたえ奉まつられよ、慰めよ。

あの世に 働く その御魂に、この世のことばの 息吹きを伝えよ。

人の思いを言霊に変え、祝詞となさば、届けられむ。

この世とあの世は、つながれるもの。境は ありて なき如し。

いまだ遅れし 地上の進化よ。

人の靈性向上のため、往ぬる御魂は 働きており。

この世に在りし、その時よりも、今や彼岸に 休むことなし。

肉体離れし 今際の時より、御魂は真の自由を得、

この世とあの世を 行きつ戻りつ、神の使いの み役に勤しむ。

嘆き悲しむ 心は無用。今や 御魂は 天界を、縦横無尽に 翔りたまえば。

この世の縁は 切れることなし。

神との縁を 深めゆかば、人との縁も 強まりゆかむ。

神にて結ばる 縁こそは、人の全ての 見えない絆、全てが 宇宙に つながるる、一なるものの 思いの始め。

一つなるもの、同じもの。全ては 神の み心なれば。

明るき心で 見送れよ。

御魂は 喜び、神の命を、勇み、励みて 勢い増さむ。

手向けることばは 感謝の言霊。

この世に生の在りし時、共に過ごせし幸いを 稀有なる縁を 言祝げよ。

御魂は 時空、次元を超えて、地上の平和の実現のため、今にも増して 貢献せむ。

現世を生きる者たちは、祈りのことばを 捧げるべし。

御魂のさらなる活躍を、共に後押し、働かむ。

神のご意図を知る者たちは、神の縁にて結ばるる者。寂しき思いは 錯覚なりと、遺さる者は、早くに気づけよ。

全ては神の経綸なれば、無駄なるものは ひとつもなし。一人の死さえも、尊き意味あり。

そを知る機会と気づかれよ。さにて。